

近現代史ゼミ【第3期 フィールドワーク・2010年9月25日】の報告

— 信濃路に近代史の《闇》を見る —

「近現代史ゼミ」は歴史の真実に迫り、これからの歴史と生き方を考えるにユニークな講座。
講師は我がフォーラムの生き字引である内藤真治が務め、隔月1回「目からウロコ」の講義をしています。

秋冷の 松代地下壕 ^{のみ} 鑿の跡 芹澤 和

天候にも恵まれ、26名が参加（含講師・スタッフ）。有意義な信濃路フィールドワークとなりました。

数日前から雨が降ったり止んだり。せっかくのフィールドワーク（野外授業）も雨天では…と心配していましたが、当日は晴れ。例年の参加者に何うと、毎年お天気には恵まれているとのこと。どうやら参加者には晴れ男・晴れ女がいるらしい（心当たりの方は是非来年もご参加を！）。

【コースと見学場所】

高崎駅東口交番前 集合—出発(8時40分)—吉井IC—長野IC—象山地下壕(中央官庁・NHK移転予定地)…山寺常山邸…気象庁地震観測所…舞鶴山地下壕(大本営・天皇・皇后御座所予定地ほか)…大島博光記念館(併設のレストラン「はなや」で昼食)—長野IC—坂城IC—別所温泉(山宣記念碑)…自由行動(安楽寺、常楽寺、北向観音など)—上田菅平IC—吉井IC—高崎駅東口 到着(18時半頃)

8時半に集合。駅前には工事中で集合場所である交番が行き止まりというハプニングもありましたが、皆さん迷うことなく(?)集まり、マイクロバスに乗り込んでいざ出発。

まずは講師の挨拶から。続いて参加者の自己紹介。高校教師だった内藤講師の元教え子や同僚・関係者が多く参加されていて、まるで「内藤一門」といった様相。時の話題である尖閣諸島や検察のFD改ざん問題について、講師に説明を求める声も出ました。皆さんの学ぶ意欲が盛んでした。

さて、見学場所の一部を紹介しましょう。

象山地下壕

1944年11月から45年にかけて総延長5.9km余の地下壕が掘り進められた(519mが見学可)。ここに霞ヶ関の省庁と放送局を疎開させる計画だった。工事に動員されたのは、「強制連行」の朝鮮半島出身者約7千人、日本人約3千人。



ヘルメットを被って地下壕へ。内部には、岩にささった削岩機のロッドやトロッコの枕木跡、「大邱(テグ)」と読める落書きなどがあり、暗い中を目を凝らして見学しました。

舞鶴山地下壕

総延長2.9kmの地下壕と半地下式の地上施設が残っている。これらには大本営、天皇・皇后御座所、宮内省などを疎開する計画だった。現在、気象庁の精密地震観測室となっており、見学できるのは地上部の施設と地下通路の一部のみ。



まずは天皇御座所(非公開)を外から見学。
室内を覗くと立派な柱などが見え、参加者で
建築家の家泉さんから建築学的見地のお話を
伺うことが出来ました。内藤講師から家泉講
師へバトンタッチ! ?この後、地上の皇居か
ら地下御殿へと続く階段を下りて、地下御殿
入口の前で内藤講師の講義が再開。

詩と歌の家 大島博光記念館

1910年松代生まれの詩人・仏文学者。戦前、西條八十
の下で詩誌「蠟人形」の編集にあたる。戦後「フランスの起床
ラッパ」をはじめアラゴンやエリュアールらのフランスのレジス
タンスの詩を紹介する。2006年没。妻は群馬県出身。

千曲川よ

その水に風は足跡をのこし

その水にわたしはきみの名を書く

事務局長の小林さんの記念館設立までの苦
難のお話や心のこもった博光の詩の朗読に、
皆さんうっとり。

山本宣治記念碑

1889年、京都市生まれ。同志社大講師を勤め、性教育
の啓発や産児制限運動に関わる。やがて労働農民党の京都
府連合会委員長となり、第1回普通選挙で当選して代議士と
なる。1929年、治安維持法改悪に反対して兇刃に倒れた。



山本宣治の記念碑がなぜここに建てられた
か? 碑面に掘られた文字の意は? など碑の設
立にまつわる話を熱心に聴きました。写真か
らその熱心な様子が分かりますよね?

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

参加者の方々からたくさん感想をお寄せ
頂きましたので、一部を抜粋して紹介します。

露じめる 松代地下壕 霊籠る
地下壕の ハングル文字や 露しとど
爽やかや 山宣の巨碑 屹立す

(芹澤 和)

今回、近現代史ゼミで松代地下壕の見学
をし、また社会科勉強をさせられた。その中
で、我々は戦争中の負の遺産ばかり見せられ、
絶えず世界に対してあやまってばかりいる。
このことが、今の日本人が世界に対して、胸
を張って自国の歴史を語れなくなっている。
歴史は事実ですから、今の国を造っているの
であって、正も負もある。全てを負として否
定するのではなく、正の部分も見つめ教えて
いく必要があると感じている。今の社会を形
成しているのは、これまでの歴史から生まれ
たのであって、急に完成されたものではない
とするならば、負も正であり正も負である
と思う。地下壕を単なる負の遺産として紹介
するのではなく、正の部分である建設技術も認
識できるよう教えるべきであると感じる。現
在のトンネル技術につながる地下壕であるこ
とも事実であると思う。近代日本がどのよ
うにして立ち直り現在にいたったのかという
のは、大切な社会科であると思う。そうす
ることにより、世界に出た若者が下を向
いて渡り合うのではなく、正々堂々と世
界の人々と交わるのではないだろうか。歴
史にフタをして、考えるきっかけさ
え与えない今の状況に疑問を感じる。
そうした意味からも内藤先生の強制連
行の話に耳をかたむけた。

(家泉 博)

1948年生まれの私達の子供の頃、戦争
(戦後)は身近なものでした。街頭には白
衣の傷痕軍人の姿、家にはよく父の戦
友が訪れていました。昨年亡くなった
父は、死の1カ月前にもインドネシ
ア語を思い出していました。母は今
でも8月5日の前橋空襲の話をして
います。戦争体験をした父母には、
戦後65年はそれほど遠い昔では
ないようです。私達に今できる事
は、戦争の悲惨さを後世に伝える
事でしょうか。

(下田 けい子)

(文責 藤原麗子 下田由佳)